

緒言

本集は千九百二十六年中、日本の諸大學に於て、講演する榮譽を得たもの大要を録したものである。その際には、幻燈を添へて理解に便するを得たが、之には除いたので、興味を殺ぐ事の多きを慮れるのである。然し日佛會館に迎へられた訪客として、その試みたものが、多少なりその跡を止める様にとの當會館理事會の希望は、固より當然の事といはねばならず、又、余自身に於ても、之を幸に、當會館創立者諸氏、並に、知友諸氏に對して、余の享けた過分の厚遇を廣く謝し得る機會が與へられた事ともなり、同時に、余の同僚たる、印度學、考古學の諸氏に對して、謝意を表し得る事ともなる。實に、之等諸氏は好意を持つて余に講演を囑せられ、或は諸社寺博物館を案内し、其至寶を示して、余が佛教美術の巡禮に資せられた。思へば實に學ぶ所が多かつたのである。

アルフレド・ブシエ